

かけはし



2023.11.29

すべての子どもが、
「おはよう」から「さようなら」まで、
安心して学べる比奈知小学校に

第2回 学校運営協議会を終えて・・・

コミュニティ・スクールは、未来を担う子どもの豊かな成長のために学校・地域・保護者が連携・協働し、それぞれが自分たちに何ができるか当事者意識をもって子どもの成長を支えていく仕組みです。名張版コミュニティ・スクールでは、学校・地域・保護者がめざす子どもの姿を共有するとともに、その実現のために「学校運営への参画」「学校支援の充実」「地域貢献の場づくり」を柱に、地域の子どもの「学び」と「育ち」に係わる当事者として、連携・協働した取組を実施していきます。

10月16日(月)、第2回学校運営協議会を開催しました。本校の現状(児童の様子や1学期末学校児童アンケート結果分析、学力面、小中一貫教育の現状、学校と地域との関わり)について説明をさせていただいた後、委員の皆様と今回は、「地域での子どもたちの居場所づくりについて～不登校の子どもたちに、地域で何かできないか～」をテーマに熟議を行いました。全国的に小・中・高の不登校児童生徒が約30万人に急増している中、不登校により、学びにアクセスできない子どもたちをゼロにすることをめざし、「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策「COCOLOプラン」が文部科学省で取りまとめられました。主な取組として、不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、学びたいと思ったときに学べる環境を整えるという中で、子ども家庭庁とも連携しながら「多様な学びの場、居場所の確保」ということがあげられていることを受け、グループ別に行おうと計画をしていましたが、委員の方よりどうしたらよいか不安の声や、いきなり不登校対策は難しい。また、予備軍をつくらぬことに重点を置いた方が良くといった意見が出されました。今回、「こうしていきましょう」という具体的なお話しはできませんでしたが、今後、児童への心理的なサポートや、学習支援等について、学校運営協議会で研修の機会を設ける必要であると感じました。

また、昨年度学校と地域の連携・協働した取組の全体像が見えるCSカレンダー(コミュニティ・スクールに関わる年間計画)を提案し、取組を「見える化」したことで、関わっていた方が増えるとともに、コミュニティ・スクールについての理解度が高まりました。今後、継続した取組につながることを期待したいと考えます。



じゅくぎ ようす 熟議の様子

だれひとりこのまなほしようむ
「誰一人取り残されない学びの保障に向けた
ふとうこうたいさく 不登校対策「COCOLOプラン」(文部科学省)

誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策「COCOLOプラン」(概要)	
<p>◎小・中・高の不登校が約30万人に急増。90日以上不登校であるにもかかわらず、学校内外の専門機関等と相談・指導等を受けられずにいる小・中学生が6万人。</p> <p>⇒不登校により学びにアクセスできない子供たちをゼロにすることを目指し、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整える 2. 心の小さなSOSを見逃さず、「チーム学校」で支援する 3. 学校の風土の「見える化」を通じて、学校を「みんなが安心して学べる」場所にすることにより、誰一人取り残されない学びの保障を社会全体で実現するためのプランを、文部科学大臣の下、とりまとめ。 <p>◎今後、子ども家庭庁の司令塔である子ども家庭庁等とも連携しつつ、今すぐできる取組から、直ちに実行。また、文部科学大臣を本部長とする「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策推進本部」を、子ども家庭庁の参画も得ながら、文部科学省が主導、進捗状況を管理しつつ取組を不断に展開。</p>	
<p>主な取組</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整える 仮に不登校になったとしても、小・中・高を連通して、学びたいと思った時に多様な学びにつながるができるよう、様々なニーズに応じた受け皿を整備。 ◎不登校特例校の設置等(早期からの部連行等・指定都市に、将来的には分教区型など全国300校設置を目指す。授業時間や支援内容等を全国に展開。不登校特例校の名称について、関係者に意見を募り、より子供たちの目線に合ったものとする)。 ◎学校運営支援センター(スペシャリストチーム等)の設置促進(待ち構えた空間で学習・生活できる環境を学校内に設置) ◎教育支援センターの機能強化(業務受託等を通じて、協働やピア・スクール等の活用を促進) ◎多様な学びの場、居場所の確保(子ども家庭庁とも連携。学校・教育委員会等とNPO・フォーカス・スクールの連携強化。夜間中学や、公民館・図書館等を活用。在宅型での学習支援も推進) 	<ol style="list-style-type: none"> 2. 心の小さなSOSを見逃さず、「チーム学校」で支援する 1人1台端末を活用し、小さなSOSに早期に気付くことができるようにすることにも、不登校の保護者も支援。 ◎1人1台端末を活用し、心や体調の変化の早期発見を促進(健康観察に活用) ◎「チーム学校」による早期発見(個別スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、保護者連絡等)が専門性を発揮して連携。子ども家庭庁とも連携しつつ、施設利用と教育委員会との連携を強化 ◎一人で悩まずに相談できる学習支援(相談窓口設置、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーが保護者を支援)
<ol style="list-style-type: none"> 3. 学校の風土の「見える化」を通じて、学校を「みんなが安心して学べる」場所に 学校の風土と欠陥(数値)には関連を示すデータあり。学校の風土を「見える化」して、関係者が共通認識を持って取り組めるようにし学校を安心して学べる場所に。 ◎学校の風土を「見える化」(風土等を把握するためのツールを整理し、全国へ提示) ◎学校で学ぶ期間の全てを「見える化」(学校)を公開(子供たちの特性に合った柔軟な学びを実現) ◎いじめの防止等に関する取組に対する継続した対応の見える化 ◎保護者等が主体的に参画した取組の見える化の推進 	<ol style="list-style-type: none"> 3. 学校の風土の「見える化」を通じて、学校を「みんなが安心して学べる」場所に 学校を「みんなが安心して学べる」場所に。 ◎学校を「みんなが安心して学べる」場所に。 ◎学校を「みんなが安心して学べる」場所に。
<p>実効性を高める取組</p> <p>◎エデュテック「見える化」に関する調査を実施するための調査の推進(「一人一人の児童生徒が不登校と闘った原因や、学校の状況等を分析・把握)。 ◎学校における働き方改革の推進。◎文部科学大臣を本部長とする「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策推進本部」の設置</p>	

2学期も終わりに近づきました。今学期は、多くの行事で活躍した子どもたちの姿や日々教室で見せる真剣な学びの顔など、心に残るシーンが数多くありました。

人がよりよく生きるためには、子どもたちの素直さや優しさ、そして、新しいものにチャレンジしていくことが大切だと思います。学校生活の中でも、子どもたちどうしがふれあい、学び合い、日々成長している様子がたくさんありました。

2学期はいろいろな学習があり、その時々には保護者や地域の皆様から学校に協力をいただき、子どもたちとふれあっていたいただき、子どもたちの成長を支えていただいたことに感謝申し上げます。



名張中学校区小中一貫教育 乗り入れ授業(美術)

6年生が名張中学校へ行き、中学校の先生の指導のもと美術の授業を受けました。緊張しながらも、楽しく活動できました。

つくし祭りの様子

「子どもと夢を語ること」

ある教育 冊子を読んでいて、共感 できる内容がありました。ぜひ本校においても、大切にしていきたいなと思いました。本校も、夢やあこがれ、目標をもって、それに向かって努力する子どもを大切にしていきたいと考え、日々 教育 活動を進めてきています。終業式 等における校長 あいさつの中においても、夢をもつことの大切さについて話 をしています。

「できるか」、「できないか」ではなく、「やるか」、「やらないか」が大切です。夢を言葉にして伝え、挑戦 してみることが大切であると考えます。自分の夢を語る子どもの目はきらきらとかがやいています。Society5.0、つまり 2040年ごろの社会はどうなるのか、それは、国も科学者も私たち教職員 も、きっと誰もわからないのではないのでしょうか。そんな誰も予測できない社会で子どもたちは生きていくのです。そんな時代だからこそ、様々な可能性をもつ子どもたちと夢を語ることの大切さを忘れずに学校運営を推進していきたいと考えます。



人権学習
授業参観

登下校の見守りについて (お願い)

子どもたちの登下校の安全について、保護者・地域の皆様にご協力 をいただきありがとうございます。今後も子どもたちの安心安全のため、特に下校時刻の3時から4時半ぐらいに家の前を出ていただき、散歩をその時間帯に合わせていただくなど、地域全体で見守っていただければ幸いです。どうぞよろしくお願ひします。